1 JR 南武線・武蔵溝ノ口駅

川崎市高津区溝口 1-1-1

改札口広場の天井には、二ヶ領用水を公平に分けた先人の知恵「久地円筒分水」をかたどったモニュメントがあります。1821 年（文政4）に起こった「溝の口水騒動」は二ヶ領用水史上最大の、水の配分をめぐる紛争でした。そんな歴史の記憶を背負って戦前に建造された久地円筒分水は今も残り、今回の見学スポットの目玉です。

2 中原堰跡

川崎市高津区溝の口 1-16

駅前商店街を抜け、蛇行した道沿いの駐輪場が「中原堰」を埋めた跡地。もともと平瀬川が流れていたところでした。溝の口一帯は、昔は〈水の口〉といわれたくらい、沼地や池だらけで、土地の古老によれば、雨が降ると多摩丘陵の水が平瀬川に流れて氾濫し、水びたしになったそうです。中原堰でせき止められた用水路は周囲の田畑を潤しました。

3 大石橋

川崎市高津区溝口３付近

大山街道にかかる「大石橋」付近の右岸には金物店の古い蔵造りの建物が残され、往時をしのべます。

4 浜田橋

川崎市高津区溝口３付近

「浜田橋」は、陶芸家・濱田庄司の墓所（宗隆寺）に近いことから名づけられました。濱田庄司は子どものころ用水で溺れかけたとか。昔は約 1km 先の円筒分水のところから二ヶ領用水に飛び込むと、この浜田橋まであっという間に流されたそうです。それくらい流量がありました。ここを乗り切って泳げないと多摩川で泳げないよ、と子どもたちは言われていました。

5 久地円筒分水

川崎市高津区久地 1-341

円筒の堰にあふれ出る水の量は円周の長さの比率によって分配されることを利用し、水量が変化しても各堀に流れ出る水量比率が変らないよう工夫したのが円筒分水です。「久地円筒分水」は農業土木技術者・平賀英治により、すべての工事が設計・指揮され、二ヶ領用水を利用する4つの堀の灌漑面積を調べ、その面積の比率によって公平に分水しました。最も広い川崎堀が 77%、次いで六ヶ村堀 15%、根方堀5%、久地堀3%という割合です。全国各地に円筒分水は 150 近くありますが、この久地円筒分水だけが唯一、国登録の有形文化財に指定されています。

6 久地分量樋跡

川崎市高津区久地３丁目付近

久地分量樋は、二ヶ領用水中興の祖・田中休愚の指揮でつくられた施設ですが、単に水路を4つの幅の水門で分けただけだったので、水路の中央部では流れが早く流量も多く、岸の近くではその反対になり、正確で公平な分水はできませんでした。そのため長い間、分水量をめぐる争いの原因ともなってきました。その後、最新の土木技術を駆使した円筒分水の完成によって水紛争が解決され、その役目を終えました。

7 久地の横土手跡

川崎市高津区久地３丁目付近

江戸時代、久地分量樋と下流の村を洪水から守るため、多摩川に対して直角に堤防を築いて水勢を弱めようとする「久地の横土手」が着工されました。しかし、氾濫した河川を上流の低地に滞水させるので、上流の村はかえって洪水の危険にさらされることになり、双方の利害が対立して、工事は 300 m進んだところで中断されました。現在の舗装道路がその遺構だったことを、小さな水神様の祠と案内板が告げています。

8 落合（合流点）

川崎市多摩区宿河原 6-31 付近

二ヶ領用水の多摩川取水口は2つ。JR 南武線・中野島駅近くの上河原堰から取り入れた水路と、小田急線登戸駅近くの宿河原堰からの水路は、南武線久地駅近くで合流しています。線路沿いの狭い露地を抜けて合流地点（落合）の橋にさしかかると、住宅街を縫うようにして走る現在の水路のたたずまいに、往時の田畑を潤した命の水脈の姿を重ね合わせたくなります。

9 親水ゾーン

川崎市多摩区宿河原

東名高速道路をくぐるあたりから上流は、散策路が整備された親水ゾーンになります。用水路べりに降りて水と緑を身近に感じながら歩くことができます。二ヶ領用水で最も水辺を歩く楽しさを満喫できるエリアといえるでしょう。両岸約2km にわたってソメイヨシノの桜並木が続きます。

10 五ヶ村の掛け樋

川崎市多摩区宿河原６丁目

五ヶ村堀が現存して二ヶ領用水と立体交差する掛け樋です。これは多摩川に通じる排水路の役割を果たしていたそうです。近くにあった八幡下の堰は、北原白秋作詞の『多摩川音頭』に「堰の長池　出てみりゃ長い　おまえ待つ夜は　おまえ待つ夜は　まだ長い」と謡われています。付近では子どもたちが魚捕り網を持って水遊びに興じたりするなど、いつまでも残したい親水の景色です。

11 ガード下

川崎市多摩区宿河原 2-2 付近

親水ゾーンには、身をかがめなければ通れない場所がいくつかあります。この JR 南武線と交差するガード下もそのひとつ。

12 二ヶ領せせらぎ館

川崎市多摩区宿河原 1-5-1
10:00 〜 16:00（月、12/28 〜 1/4 は休館）　無料

宿河原堰に隣接する施設で、水防活動資材を備蓄しています。平常時はその一部を、多摩川や二ヶ領用水の防災、環境、歴史、文化に関する学習などの情報発信拠点として活用しています。

二ヶ領用水フィールドワークガイド

齋藤光正さん（NPO 法人多摩川エコミュージアム理事）、鈴木眞智子さん（同理事・事務局長）、
吉田威一郎さん（久地円筒分水サポートクラブ リーダー）の解説をもとにミツカン水の文化センターが作成

里川文化塾実施日：2012 年 5 月 26 日